

2018 年度(シラバス)

科目名	ルポルタージュ研究特論	単位数	2単位
		担当教員	天野一哉
【授業概要】			
<p>事実、社会をいかに捉え、どう解釈するか。そして自らは何を発信するのか。ルポルタージュ(ドキュメンタリーおよび fact-based の映画等映像作品も可)を読解し、書評(批評)を執筆することにより、「世界に行為する個」の確立を志向する。</p> <p>1年次に本科目「ルポルタージュ研究」(ベーシック)、2年次に「メディア・ジャーナリズムプログラム演習」(アドバンス)を履修することで系統的学修ができる。受講対象はルポルタージュを執筆したい人、大学や専門学校でジャーナリスト養成に携わりたい人、初等中等教育および社会教育においてメディアリテラシー等の「思考力・表現」に関する授業を計画している人、社会の変革を画している人等。</p>			
【授業の到達目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ルポルタージュ作品の社会的文化的意義を考察する。 2. ルポルタージュ作品を批判的思考で分析する。 3. ルポルタージュ作品を活用する資質能力を身につける。 			
【授業計画】※以下に示す回数は 15 回(2 単位)の講義内容を想定した学修量を示す。			
<p>第 1 回 ルポルタージュの社会的文化的意義</p> <p>第 2 回 ルポルタージュの構造・手法</p> <p>第 3 回 ルポルタージュの分析</p> <p>第 4 回 ルポルタージュの活用</p> <p>第 5 回 ルポルタージュの展望</p> <p>第 6 回 書評企画 1(作品選択)</p> <p>第 7 回 書評企画 2(構成)</p> <p>第 8 回 書評企画 4(相互評価)</p> <p>第 9 回 書評企画 5(省察・修正)</p> <p>第 10 回 書評執筆 1(概要)</p> <p>第 11 回 書評執筆 2(詳説)</p> <p>第 12 回 書評執筆 3(推敲・校正)</p> <p>第 13 回 省察</p> <p>第 14 回 展望</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
【スクーリングでの学修内容】			
スクーリングでは、ルポルタージュの社会的文化的意義と構造・手法の整理、学生が執筆した書評企画書の相互評価を行う。(第 1 から 9 回相当)			
【評価方法】			
レポート 20%、スクーリング 30%、科目修得試験 50%			
【教科書】			
ロラン・バルト(1979)『物語の構造分析』みすず書房(特に「作者の死」)			
【参考文献】			
<p>武田徹(2017)『日本ノンフィクション史 - ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』中公新書</p> <p>ロラン・バルト(2015)『映像の修辞学』ちくま学芸文庫</p> <p>眞嶋俊造ほか編(2015)『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』慶應義塾大学出版会</p>			

